# 小学校 図画工作科 部会

部会長　福智町立上野小学校 校長　朝倉　暢睦
実践者　福智町立弁城小学校 教諭　井本　慎太郎

1　研究主題

「生きる力」を育む図工科学習指導の研究
～主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して～

2　主題設定の理由

（1）現代社会の要請から

現代社会は、新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会」の時代であると言われている。このような知識基盤社会化やグローバル化は、アイデアなど知識そのものや人材をめぐる国際競争を加速させる一方で、異なる文化や文明との共存や国際協力の必要性を増大させている。現在、社会変化が予測をこえて進展するようになってきており、このような予測不能な社会を生きるために必要である「生きる力」を育むことがますます重要になってくる。この激しい社会を担う児童たちには、①生きて働く「知識・技能」、②未知の状況に対応できる「思考力・判断力・表現力等」、③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」資質・能力が求められる。そこで、学校においてこれらの資質・能力を育むためには「社会に開かれた教育課程」の理念に立脚した組織運営の改善と授業改善を図ることが重要であるとし、「カリキュラム・マネジメント」と「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けた授業改善が提起されている。

（2）図画工作科の目標から

図画工作科のねらいは、「表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す」ことである。

図画工作科の学習は、児童が感じたことや想像したことなどを造形的に表す表現と、作品などからそのよさや美しさなどを感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深める鑑賞の二つの活動によって行われる。表現と鑑賞はそれぞれに独立して働くものではなく、互いに働きかけたり働きかけられたりしながら、一体的に補い合って高まっていく活動である。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を目指すにあたり、各教科の「見方・考え方」を働かせることを深い学びへの鍵として重視している。図画工作科では、これを「造形的な見方・考え方」として、「感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージを持ちながら意味や価値をつくりだすこと」としている。これを捉えて授業改善を目指していくことが、図画工作科ならではの視点であり、児童の「生きる力」を育む上で重要である。

（3）児童の実態から

本学級の児童は、元気が良く活動に積極的な児童が多い。しかし、図画工作科の学習では、創造的な活動が苦手な児童が多く、初めて取り組むことに消極的な児童がいる。さらに、大雑把な作業で最後まで作品をきれいに仕上げることが苦手で、今まで身につけたことを活かそうとしない児童も多かった。また、友達の作品の良いところを見る時間では、相手の作品の気になるところがあっても質問せず、自分と異なる新しい考えを取り入れようとする姿勢が低かった。

このような児童の実態から、本実践の「まどのあるたてもの」で、カッターナイフで切った紙の形を活かし、作品を作り上げる活動や視点をもって友達の作品の工夫を見る活動を通して、感性や想像力を働かせ、自分のイメージを持ったり、意味や価値をつくりだしたりできるようにしたいと考える。さらに、鑑賞活動においては、一人一人の児童の気付きを交流できるような時間や場などを工夫し、児童同士の見方や感じ方を広げられるようにする。

3　主題の意味

（1）「生きる力」を育む学習指導とは

「生きる力」を育む学習指導とは、各教科、特別の教科道徳、総合的な学習の時間及び特別活動において、児童の発達段階や特性等を踏まえつつ、次に掲げる３点の資質・能力を偏りなく育成できるような授業づくりを行うことである。

① 生きて働く知識・技能の習得させること。

② 思考力、判断力、表現力等を育成すること。

③ 学びに向かう力・人間性等を涵養すること。

（2）「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」とは

「主体的な学び」は、学ぶことに興味や関心をもち、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる学びである。

「対話的な学び」は、児童同士の協働、教師や地域の人との対話、先哲の考えを手掛かりに考えること等を通じ、自らの考えを広げ深める学びである。

「深い学び」は、習得・活用・探求という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連づけてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に想像したりすることに向かう学びである。

この３つの学びの視点から学習過程の質的改善を行うことが、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善であり、そのことを通して、「生きて働く知識・技術の習得」「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性の涵養」を育成するものである

各教科で授業改善を図るにあたり、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連づけてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に想像したりすることに向かう学習の過程を重視している。深い学びへつながるものとして重視されてい

る。図画工作科では、これを「造形的な見方・考え方」として、「感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージを持ちながら意味や価値をつくりだすこと」としている。この「造形的な見方・考え方」の特徴は、知性と感性を共に働かせて対象や事象を捉えることであり、身体を通して、知性と感性を融合させながら対象や事象を捉えていくことが、他教科以上に図画工作科が担っている学びであり、そのことを意識して実践を行っていく。

4　研究の目標

図画工作科における「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けた、児童が感性や想像力を働かせ、自分のイメージを持ちながら意味や価値をつくりだす学習活動のあり方について究明する。

5 研究仮説

図画工作科の学習指導において、次のような手立てをとれば、児童は感性や想像力を働かせ、自分のイメージを持ちながら、意欲的に活動し、主体的・対話的で深い学びへとつなげることができるであろう。

（１）児童の表現意欲や用具や材料への関心を高めるため、みんなで目的を設定する。

（２）見方や考え方を広げるため、交流の視点を友達の作品の工夫や意味に絞る。

（３）児童の見方や感じ方を深めるため、鑑賞活動の際に作品を比較したり、作品の意味を考えさせたりする。

6 研究の計画(授業の計画)

（１）題材「まどのあるたてもの」

（２）題材の目標及び指導計画

<table>
<tr><td colspan="2">単元</td><td colspan="2">まどのあるたてもの</td><td>総時間</td><td>６時間</td><td>時期</td><td>１１月</td></tr>
<tr><td colspan="2">単元の目標</td><td colspan="6">○カッターナイフで窓を切った建物をつくることを通して、建物や窓の形の面白さに気づいている。（知識及び技能）<br>○自分のイメージやカッターナイフで切った紙の形をもとに表したいことを考え、どのように表すかを考えている。（思考力、判断力、表現力等）<br>○カッターナイフで紙を切る快さを味わいながら、活動にたのしく取り組もうとしたり、自分や友達の作品を鑑賞しようとしたりしている。（学びに向かう力、人間性等）</td></tr>
<tr><td>次</td><td>時</td><td colspan="2">具体的な目標</td><td colspan="2">学習活動・内容</td><td colspan="2">指導上の留意点(援助・支援)</td></tr>
</table>

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 1 | ○どんな作品を作りたいかをイメージし、学級全体で作品の発表会までの学習計画を立てる。 | ○窓のある建物の写真を見て、出来上がりのイメージを持つ。<br>○作りたい建物や窓の形を交流する。<br>○発表会の内容を計画する。 | ○材料・用具を説明する。<br>○カッターナイフを使う時のきまりを確認する。<br>○どんな建物や窓の形を作りたいかを考えさせ、児童の考えを板書し、可視化する。 |
| 2 | 2<br>3<br>4<br>5 | ○考えたイメージをもとに、窓のある建物をつくる。 | ○いろいろな形の窓を考え、開け方や窓の場所を工夫する。<br>○作る過程で見つけた気づきを友達と交流する。 | ○窓の開け方が理解しやすいよう、紙を切る手元を実物投影機で映して見せる。<br>○児童の考えを広げるために、アイデアを交流させたり、全体で考えさせたりする。 |
| 3 | 6 | ○友達の作品の良いところを見つけ、交流する。 | ○児童の作品を並べ、学級で一つの街を作り、飾りつけの工夫や窓の形や色の意味などを交流する。 | ○お互いの作品の良さに気づくことができるように、鑑賞の視点を確認する。 |

7　指導の実際

| 教師の働きかけ | 児童・生徒の反応 |
|---|---|
| 【第１時・・・導入】<br>○様々な形の建物や窓の写真を見せ、建物や窓の形の面白さを考えさせ、自分の作りたいものを想像させた。 | ○「窓って面白い。」「どんな形の建物にしよう。」など、初めて見る建物や窓の形に驚き、建物を作ってみたいや窓を開けてみたいという活動への意欲を高めることができた。 |
| ○材料・用具を説明し、どのように活動したり、表したりしていきたいかを交流させた。 | ○「まっすぐ切れば、ケガをしない。」「きれいな四角形の窓を作りたい。」など、カッターナイフで切った時の経験を基に交流する姿が見られ、意欲的に交流する姿が見られた。 |
| ○積極的に活動に取り組ませるために、作品発表会までの学習計画を立てさせた。 | ○「カッターのいいところを出せば、素敵な作品を作れそう。」「友達を協力して、いい街を作りたいな。」など、これまでに身につけたことや思いついたアイデア、友達の意見を活かして活動する必要性を考えさせることができた。 |

| | |
|---|---|
| 【第２～５時・・・制作】<br>○カッターナイフの使い方を復習させた。 | ○「手に気を付けたら、大丈夫。」「力を込めて切るぞ。」など、カッターナイフを使う時の注意点やカッターナイフで切る快さを再確認できていた。 |
| ○建物や窓の形を作る際に、自分のイメージやどんな意味を込めているのかを考えながら、工夫するように指導した。 | ○「お化け屋敷だから、お化けの形の建物にしよう。」「友達が雨宿りできるように、屋根を大きくしてみたよ。」など、自分のイメージに合う建物や窓の形を想像し、どのように自分の考えを表すかを考えていた。 |
| ○見方や考え方を広げるために、毎時間、友達と交流し、友達の作品の工夫や工夫のよさ、工夫の意味を探し、自分のイメージや見方、考え方を広げる時間を設定した。 | ○「この工夫、すごいね。」「これぼくもやりたい。」など、友達の考えを聞いたり、友達の作品の工夫を見つけたりすることで、イメージを持つのが苦手な児童が、より良い作品のヒントを得ることができた。<br> <br>**【写真１　友達の作品について交流する児童】**<br> <br>**【写真２　交流して気づいたことを発表する児童】** |
| 【第６時・・・発表・鑑賞】<br>○児童が作品との関わりをより深く感じることができるように、作品のイメージや自分 | ○「太陽の光が入りやすい窓の形を考えました。」「友達と仲良く遊べそうな家を考えました。」など、作品のイメージを持つことで工夫を多く考え、発表することがで |

| | |
|---|---|
| の作品の工夫したところを発表させた。<br><br>○児童の見方・広げるために、児童の作品を持ち寄って街に見立て、共同作品を作らせた。 | きていた。「作品を家で大切に保管したい。」と伝えてくれており、作品に対して価値をもっているようだった。<br><br>○「とてもいい工夫だね。」「そんな意味があるんだね。今度、真似してみたい。」など、児童が友達の作品を触ったり、見たり、話したりすることで、新しい気づきを得ていた。 |

【写真３　完成した児童の作品】

【写真４　共同作品を鑑賞する児童】

8　研究のまとめ

これまでの本学級の児童は、作品のイメージを持てなかったり、友達の意見を聞かず、自分の見方・考え方のみで作品を作ったりしていた。また鑑賞では、友達の作品のよいところをあまり見つけることができていないという実態があった。

しかし、今回の授業では交流の際に友達の工夫や意味を考えさせることで、友達との交流の中で、「やってみたい。」「そんな工夫があったのか。」など、自分の見方・考え方を広げることができていた。また鑑賞では、「窓の一つ一つがお洒落な形をしていて、いい作品だね。」「私の作品とくっつけると、すてきなもっと豪華なお家に見えるよ。」などと、友達の作品と自分の作品を比較したり、新しいアイデアを思いついたりすることができた。また、「持って帰って、隣の家を作りたい。」など、自分の作品を大事にしたいという作品への深いかかわりをもることができたと考える。今回、「主体的・対話的で深い学びの実現」のために、児童が感性や想像力を働かせ、自分のイメージを持ちながら意味や価値をつくりだす学習活動のあり方を究明するということで、実践を行ってきた。成果はほんの僅かではあるが、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の一歩になったのではないかと考える。

9　成果と今後の課題

（成果）

○　みんなで目的をつくることで、より良い作品を作る意欲を高めることができた。

○　視点をもって交流、鑑賞することを通して、お互いの作品のよさに気づいたり、児

童たちの見方・考え方を広げたりすることができた。

○　友達と交流し、イメージを持って作ることで、作品への価値をもつことができた。

（課題）

●　活動中、イメージが少ししか持てていない児童がいた。もっと一つ一つの工夫や意味を考えさせ、イメージを持たせられる声掛けや掲示物、具体作品が必要である。

◎　参考文献

○　小学校学習指導要領解説 図画工作編 文部科学省

○　図画工作 学習指導書指導案編 開隆堂